

蠟梅 Now

人類は過去に多くの感染の危機に直面してきた。3度に亘る世界的流行をみたペストのうち、14世紀に猖獗を極めた第2次は、当時の世界人口の2割強にあたる1億人が死亡したと推計されている。

過去50年に亘り、エイズやSARS、MERSなど新たに疾病と向き合ってきたにもかかわらず、新型コロナウイルスの感染拡大がパンデミックに至り、マスクも防護服も足りない、重篤患者に対応する医療体制の不備等が白日の下にさらされ、多くの国で準備不足が感染拡大に拍車をかけている。

新型コロナの封じ込めには、世界各国が足並みを揃えて向き合わないとその実現は困難である。喫緊の課題であるワクチンの開発などを早く実現するのに、世界中の科学者が先陣争いに現を抜かすのではなく、多くの分野で手を携えるなどの協力体制を構築して進めていくことが不可欠である。

ポピュリズムが台頭してリベラルな民主主義の行方が危ぶまれている中、世界的な問題を解決するモデルケースとして、核問題や気候変動への対策、貧困、飢餓の撲滅といった持続的開発目標に国際社会が協調して取り組む契機になれば素晴らしい。

自国だけは例外と考えることが危機を乗り越える障害となりかねない。日本もこうした傾向があり、都市封鎖や感染経路の追跡にさほど前向きでない傾向がみられ、リスク増大の心配がある。重篤な症状に陥りやすいといわれる高齢者が多い社会であることを忘れてはならない。

閑話休題。

法人設立の記念樹として2004年に植樹した「蠟梅」は爾来、花の少ない年末年始にかけて貴重な存在として休むことなく、馥郁とした芳香を放つ可憐な花をつけてきた。

11年11月には、実生に依る2世の誕生を実現したが残念なことに、その後の生育が芳しくない。生誕の地西神から筆者宅に移植した一株は枯らしてしまい、昨年移植した別の一株も波乱の人生(?)の渦中にある。暑い時期に移植したのがよくなかったのか間もなく落葉してしまい、二の舞になったかと落胆していると、いつの間にか再び葉を付けたものの年末には再び落葉した。それが2月になんと復活し、コロナ禍の中、再び青々とした葉を付けた。

樹形が良くないと指摘を受け、剪定してスッキリとなった体形に青葉が似合う。春も盛りに向かって、順調に生育してくれることを願っている。



《発行者》

特定非営利活動法人 未来技術フォーラム神戸
事務局長 大森 信

〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町 4-2-7

TEL&FAX : 050-2014-2293 (IP Phone)

E-mail : info@npo-ftfk.or.jp

URL : <http://www.npo-ftfk.or.jp>